

令和5年度 第2回横浜市障害者就労支援推進会議 会議録	
日時	令和6年3月14日(木) 14時30分～16時30分
場所	横浜市技能文化会館(801研修室)
出席者	眞保委員長、石川委員、高尾委員、小林委員、草野委員、山木委員、伊藤委員、伊奈委員、福田委員、男澤委員
欠席者	清田委員、須藤委員、後藤委員
開催形態	公開
議題	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 「第19回 働きたい！わたしのシンポジウム」開催案について</p> <p>(2) 意見交換</p> <p>3 報告</p> <p>令和6年度 予算概要について</p> <p>4 閉会</p>
決定事項	
議事	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>【眞保委員長】</p> <p>それでは、これより次第に沿って議題を進める。まず、「第19回 働きたい！わたしのシンポジウム」開催案について」事務局から説明をお願いします。</p> <p>【事務局】(資料1から3に沿って説明)</p> <p>(1) 「第19回 働きたい！わたしのシンポジウム」開催案について」</p> <p>【眞保委員長】</p> <p>ただいま事務局から「第19回 働きたい！わたしのシンポジウム」開催案について」の説明があったが、御質問等はあるか。「応募方法」「プログラム」「併設コンテンツ」中心にご意見をいただければと思う。</p> <p>(2) 意見交換</p> <p>【石川委員】</p> <p>知的障害者の登壇については、横浜市役所のチャレンジドオフィスで働いている知的障害者に登壇してもらうのが、一番説得力があると思う。</p> <p>市内の特例子会社に声をかけるのもよいだろう。</p> <p>「登壇者」という言葉を聞いても、知的障害のある方ご本人は、イメージがわきにくいと思うので、今回のシンポジウムのアーカイブを見ていただき、支援者に説明してもらおうとイメージし</p>

やすいと思う。

【伊奈委員】

特別支援学校の教員が周知する場合、在校生への周知になる。

実際に働いている障害のある人、卒業生へ周知するには、企業の方へ周知をお願いする必要があると思う。

知的障害のある人を対象としたいのならば、市内の特例子会社へアプローチをかけた方が、登壇希望者が出やすいと思う。

進路担当の教員であれば、卒業生のアフターフォローの際に案内することは可能だと思うが、次年度のシンポジウムの登壇者募集の時期に、アフターフォローに行くかはわからない。

そのため、話の運び方に工夫は必要になってくると思う。

【伊奈委員】

以前は、学校によっては卒業生を集めて毎年同窓会を行っていたが、同窓生の増加、コロナの影響もあり、近年廃止の流れになってきている。

20歳の集いを計画している学校や、有休を使う必要がないため文化祭などの機会に卒業生ブースを設置し交流の場を作っている例もある。

卒業生の獲得に積極的な特例子会社などは、就職1年目の卒業生が母校の3年生に対して、業務の一環として自分の仕事を紹介する場を、学校に呼び掛けて設けてもらったりしていた。

【眞保委員長】

夏休み～9月頃にかけてアフターフォローを行う学校が多いが、シンポジウムの開催も9月。

【伊奈委員】

以前、雇用部会と一緒に、本人・家族・支援機関・企業のパネルディスカッションを企画したが、その際も早めに準備をしていた。

その場で質問されることが、知的障害の方は苦手なので、参加者の方が聞きたいような内容を、知的障害の登壇者の方に深掘りしてお話しいただきたい場合には、一定期間の準備期間が必要だろう。

【石川委員】

「資料2（2 令和5年度「第18回 働きたい！わたしのシンポジウム」開催結果（2）プログラム」ア）に、「3組」とあるが、「組」とはどういうことか。

【事務局】

障害当事者の登壇者以外に、その方の「ジョブコーチ」、「移行支援事業所等の支援員」の方を含んでいるため、「組」という表現になっている。

【石川委員】

支援員やジョブコーチも一緒に登壇するのであれば、突然の質問にも対応できるので、知的障害のある人でも登壇できるのではないかと思います。

【伊奈委員】

見ている方にとっても、「こういう言葉のかけ方がいい」等、実践を参加者の目の前で見せられるので、プラスの効果があるかもしれない。

【高尾委員】

以前のシンポジウムで登壇した。

障害の有無に限らず、一定の準備期間が必要だと思う。

ジョブコーチ、支援員と、どんな発表をするか、「テーマ」や「方向性」をまとめるのはとても大事だと思う。

登壇した時の思いとしては、「登壇するからにはすべて出し切りたい」と思っていたし、「登壇者」「シンポジウムに参加された方」双方にとって有益な発表にするためには、準備期間は必要だと思う。

私が登壇した際は、実施が2月で、11月～12月には依頼を受けていたので、準備期間は1か月半～2か月ほどだった。

【伊藤委員】

シンポジウムをアーカイブで拝見したが、どの登壇者も素晴らしい発表だった。

ただ、発表者が、しゃべり方も上手で、レベルが高いため、見た人の中には「これはできない」と思う人もいるかもしれない。

ロールモデルとしてはいいが、「これぐらいできないと働けないの?」とってしまうかも。

もう少し、いろんな障害程度や就労レベルの方が混じっていいのではと思った。

【眞保委員長】

貴重なご意見、助言をいただきありがたい。

知的障害の方の登壇者募集について、YouTubeは意外と多くの人が見るので、横浜市のチャレンジドオフィスの方がお話しされているのを録画して、横浜市のYouTubeチャンネルで登壇者を募集するのはどうか。

また、近年、企業においては「雇用の質」というものが問われており、その表現方法について、各企業が苦慮している状況がある。

シンポジウムの登壇については、準備過程も含めて、障害当事者の方に、自身を振り返るという場にももらえる、「能力開発」「ブラッシュアップ」「振り返り」の機会になります。という方向で企業側にもアピールしていくのはどうか。

また、このようなイベントで、登壇者を募集している自治体は多くないと思うので、公募の形式はぜひ続けていってほしい。

【草野委員】

障害のある人が、実際に人の前に立って発表する機会は多くないと思うので、自分のやってきたことを発表したいと思う人はいると思う。

私が働いている移行支援事業所では、移行支援事業所の卒業生のうち、働いている方が、移行支援事業所に通われている利用者の親御さんに向けて、「どのような経過を経て就職に至ったか」、「実際今どんな仕事をしているか」聞いていただく発表会を設けた。

働きたいと思っている人たちの、「働く機会、寄与になりたい」と思う人は、一定数いると思うので、応募人数は集まると思う。

また、登壇者に事前に集まってもらい、「発表場所の確認」や「発表概要の確認」などを行う機会を、1・2回設けてもらえると、初めて登壇する人も心理的なハードルが下がると思う。

【眞保委員長】

知的障害のある人だと、事前に集まって説明の場があるのはいいと思う。

【小林委員】

アンケート結果（資料3）に、企業の話も聞いてみたいと記載がある。

10月に神奈川県が主催した講演会では、障害者雇用が少ない企業から、進んでいる大手企業まで、幅広い企業は集まってグループワークを行った。

本会議の事務局である、障害自立支援課も協力しているので、そこに参加した企業に対して、シンポジウムの登壇者を募るのはどうか。

神奈川県は企業に対しての支援、横浜市は本人への支援となる事業をやっているので、県と市が連携し、お互いに補い合えるといいと思う。

雇用する側の企業にも様々な悩みや考えがあるので、シンポジウムに参加してもらおうとよいと思う。

【男澤委員】

（資料1 就労啓発事業について）シンポジウムの欄の「企業」に丸がつく（ターゲット層に加わる）になると、企業・本人両者にとっていいと思う。

シンポジウムの目的は「働きたいと思えるきっかけをつくる」とある。

「企業がどんな思いで障害者雇用をしているか」が伝わらないと、働きたいというきっかけにはならないと思う。

「頑張っている人たちがいる」だけでは雇用に繋がらないと思う。

企業側に、「どのようなきっかけで障害者雇用に至ったか」、「雇用したことで、どんないいこと、苦労があったか」、「どんなサポートをしているのか」、を聞けると生きたシンポジウムになると思う。

I D E C（アイデック）（公益財団法人横浜企業経営支援財団）の広報を使って、シンポジウムを、経営者・従業員のうち、障害者雇用に取り組んでいる人、取り組もうとしている人に宣伝できるとよい。また、ZOOM等で参加できるといいと思う。

自社の従業員に知的障害のある社員がいるが、本人が一人で登壇するよりは、「本人」、「支援員」、「企業」、「就労支援センター」の4者で、お互いがトークする形式のほうがイメージしやすい

い。

【福田委員】

シンポジウムの参加者は毎年精神の方が多いのか。

【事務局】

そのとおり

【福田委員】

知的障害のある人が、シンポジウムの場でしゃべるは大変だと思う。

どちらかというと、働いている現場の映像を見せる方がいいと思う。

周りの一緒に働いている人の声を聞き、最後に本人が働いてよかったことを聞けるとみている人にも通じやすいような気がした。

会場が今回、解放されたところで、たまたま通りかかった方も足を止めてもらえるので、面白いと思った。

【眞保委員長】

このシンポジウムの、「他にない良いところ」として、「障害のある人に手を上げて登壇いただく」という点がある。

かっこよく発表をやるだけなら、「企業と事前に調整して」、「発表が上手い方を推薦いただく」などはよくある方法だが、それは伊藤委員の意見のような逆のメッセージにもなると思う。障害者雇用が進んだ証拠ではあるが。

例えば、「登壇」のハードルを下げて、知的障害のある人が大きな声で挨拶をするだけでもいいと思う。それに価値を見出してくれる企業はあると思うし、ひと声上げるだけでも市民の方に知ってもらうきっかけになる。

かっこよくやろうとせずに、登壇者を募集する仕組みはなくさないでほしい。

また、企業との連携は必要だと思う。資料を見ると、企業との登壇も過去やっているようなので、福田委員や男澤委員の意見を取り入れていただき、アンケートの意見も反映し、例えば、壇上ではなく個別のブース形式で、企業担当者と、本人に来てもらい、どうやって従業員である障害のある人を応援しているのか、普段の仕事ぶりを伝えるなどが考えられる。

壇上で企業に話してもらおうと、障害当事者ではなく、企業側にフォーカスが当たってしまう。

アンケートにあるような「障害当事者との交流の場」ということであれば、ブース形式で話していただくのも可能性としてあるような気がする。

【山木委員】

アンケートによると、初めて参加する人が多く、リピーターがあまりいないので、このシンポジウムの場が重要なのだと思った。

支援者も利用者も、企業の話には興味があると思うので、「相談ブース」形式で、時間を区切って聞きたいことをざっくばらんに聞けるといい。

「いろいろな企業のことを知りたい」「モチベーションを上げる」ためには、合同面接会のような場所ではなく、参加者自身もしゃべれる場があるといいと思う。

次回の実施予定場所であるアトリウムは、【資料2】を見ると場所は良いと思う。

いろんな人が行き交う場所なので一般市民向けに「障害者雇用とは何か」を知ってもらい良いきっかけにもなれば良いと思う。

来場者を増やすには、物販が重要で、食べ物を販売すると親子が来てくれる。

直接興味はなくても、知るきっかけ、障害者雇用って何だろうというきっかけになれば。

資料のようなスペースの使い方ができれば、周りで何か物販やっていると、見てもらえると思った。

登壇についてだが、以前、自立支援協議会の権利擁護部会で「知的障害、高次脳機能障害の方が地域の支援者に何をしていただきたいか」というテーマで、支援者向けに行った。

その際は、本人がいるグループホームに行き、聞き取りをし、発表する内容も一緒に考えた。

見る方がわかりやすいように、スライドも用意して、支援者、自立支援協議会のメンバーと一緒にインタビュー形式でやった。

インタビュー形式で行うことで、ご本人がしゃべれなくなった時などは、サポートしながら行った。一緒に準備すると、伝えてほしいことのオーダーが本人へできるし、本人が伝えたいことも伝えられる。発信がしづらいとか、緊張をやわらげるために、そういうやり方もあったなと思いました。

【眞保委員長】

会場として予定している、アトリウムと市民協働推進センターは同じ階にあるのか

【事務局】

その通り

【眞保委員長】

アトリウムのような開けた場所で登壇すると、人の出入りとかもあるので、障害のある方が登壇しづらいかもしれない。

「座談会」や「知的障害、精神障害の方の登壇」、「企業の方の講演」などの落ち着いたプログラムは、市民協働推進センターの方で行っていただいて、アトリウムでは、「物販」や「障害者雇用啓発」の動画を流し、椅子を置いて、不特定多数の方に見てもらったりするのも良いかもしれない。

どの場所で、何をを行うかも含めて検討をお願いしたいと思う。

【男澤委員】

アトリウムは開かれた空間なので、お話をする障害当事者の方からすると、閉ざされた場所の方が話しやすいと思う。

【眞保委員長】

市民協同推進センターは何人くらい入るのか

【事務局】

100人入る

【福田委員】

過去のイベントで、アトリウムで登壇やっているのか。

【事務局】

表彰式等はアトリウムで実施しているが、イベントの実施時間が長いものはやっていない。

例えば、登壇者の講演を市民協同推進センターで行い、その様子をアトリウムのメインスクリーンに同時配信を行う手法もありえるかと思った。

【伊奈委員】

今回のシンポジウムは、進路対策研究会で配ってもらったものを学校で周知した。

以前は、シンポジウムが土日に開催していたので、就職を目指している高校2、3年生に薦めやすかったが、開催が平日になったので、生徒は学校を休まないといけない。

時期によっては企業での実習もある。

進路担当の職員は「業務出張」などで、平日でも参加できるかもしれないが、生徒は平日であるがゆえに参加が困難。

夏休みなど、学校が長期休業中の平日に開催してもらえると参加しやすいと思う。

【石川委員】

1月のラポールでの成人式祝う集いの時にチラシが配布されていた。

11月の守る会連盟の福祉大会の際も、資料を配布されていたり、そのあとの部会の時にもお知らせを行っていた時があった。

来年度は9月開催だとそれが難しい

【眞保委員長】

放課後デイサービスにチラシを配布するのはいかがか。

こどもが小さいときから、保護者は将来について不安に思っている方も多いと思うし、お子さんが小さければ、平日の開催でも参加できるかもしれない。

【石川委員】

チラシのデータはもらえるのか。

【事務局】

データはある。今回の開催時も障害者団体あてにはデータを送付した。

【草野委員】

チラシのデータをもらえると、関連する事業所などに周知が早い。
また広く周知することができると思う。

【眞保委員長】

支援機関として、相談ブースについて、小林委員はいかがか。

【小林委員】

就労支援センターでは、日頃から相談を受け付けているので、就労に関する状況について、どの段階の方が来られても受け付けられると思う。

【眞保委員長】

当日の相談ブースはいかがか

【小林委員】

可能だと思う。

就労支援センターへの初回の相談は、電話でもらっている。

障害者就労について知りたいという、ご本人、ご本人以外の保護者からの相談も多く、当センターでは、説明会を月に数回開いている。

他の就労支援センターでも初回相談は行っているなので、時間を区切れれば行えると思う。

【眞保委員長】

資料2の3(3)ウのカフェツムギとの連携について、高尾委員はいかがか。

【高尾委員】

カフェツムギにはオリヒメ（遠隔操作ロボット）があるが、発表は本人が行い、質問を受けるのはオリヒメでもできるのではと思う。

【伊藤委員】

今回のシンポジウム、スライドが素敵だった。

特性上、記憶の保持が難しい方もいるので、会場にコピー機を置いて、発表で使ったスライドのうち、希望したページを言うと、その場でプリントして、お土産として持ち帰れるようにできたら、登壇を聞いた本人が自分の力にできるのではと思った。

【眞保委員長】

イベントに使える予算があるなら、オリヒメを借りてつなぐとかはいかがか。

または、ツムギカフェに会場まで来てもらって、オリヒメを使ってその場でコーヒーの注文を受けるなど、有機的な連携ができるといい。

【事務局】

できるかできないか、予算面も含めて検討する。
カフェツムギで、オリヒメが動いている様子をライブ配信などできるかもしれない。

【眞保委員長】

各委員、いいアイデアがあったら、4月ぐらいまでに事務局へ伝えてほしい。

【伊奈委員】

学校にいる「働きたいと」思っている生徒が、どうやったらシンポジウムに参加できるか考えたとき、ライブ配信があるなら、学校の授業の一環としてパイロット校を作ってもいいと思う。

市立の中学校で、時間割を確認してもらい、過去オンライン企業セミナーをやったことがあった。

例えば、シンポジウムのプログラムの「知的障害のある人の登壇」は、学校の授業中の時間にあててもらおうなど。

学校によってはグルーピングして習熟度別に授業していることもある。

保護者だけでなく、若い世代、本人も知れる機会となると思う。

【眞保委員】

参加者も増えるし、「配信をつなぐこともできますよ」と、学校に対して広報してもいい。
各委員の意見を参考にして、第19回のシンポジウムを開催してほしい。

3 報告

【眞保委員長】

「予算概要の説明について」事務局へお願いする。

【事務局】（資料4に沿って説明）

令和6年度 予算概要について

【眞保委員長】

農作業受注促進モデル事業について、現段階で何をやるか等の目途は決まっているか。

【事務局】

具体的なことはまだ決まっていないが、近日中にHP等でお知らせできればと思う。

【眞保委員長】

福祉事業所側の反応や、連携する福祉事業所の当てはあるのか

【事務局】

地域によっては、農家からの草むしりを事業所が受注していると聞いている。

そのような事業所から、アドバイスやどういったことを行うのが効果的なのかご意見をいただきながら、中身の組立等を検討していく。

【眞保委員長】

先日、県の共同受注窓口の会議があった。県西地域で農福連携を行っているが、農作業の受注は、単価が出ないと悩んでいた。

福事業所が行うと単価が安い、を売りに農家へ話を持って行ってしまうと大変かもしれない。横浜市は都市型農業のため、家族で経営していると第三者にお金を払う、という習慣がないかもしれない。農業法人になっていたら別だが。

難しい問題だが、その部分に気を付けていただけるとありがたい。

【眞保委員長】

活発にご議論いただいて大変感謝申し上げます。

それでは、司会を事務局へお返しする。

【事務局】

本日も活発なご議論をいただき感謝申し上げます。

いただいたご意見を参考にシンポジウムをより良いものにしていきたいと思う。

また、農作業受注促進モデル事業についても良い形で発進できるよう努めていきます。

今年度の障害者就労支援推進会議はこれで最後になりますが、これまで10年間委員をお勤めいただいた石川委員が最後になりますので、ご挨拶を頂戴できればと思います。

【石川委員】

10年間大変お世話になりました。

来年度についても、就労支援に関するご意見をいただき、変わらず、障害のある人たちの就労の環境がよりよくなるよう、よろしく願いいたします。

どうもありがとうございました。

【事務局】

石川委員、10年間大変お世話になりました。

来年度についても、就労支援に関するご意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

4 閉会